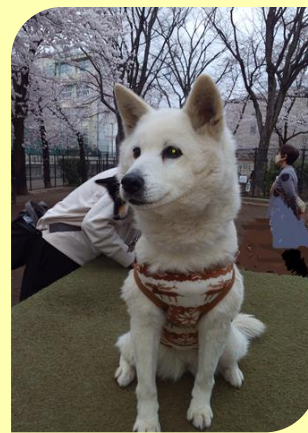


昭和 地域ニュース

No. 44

令和4年(2022年)
5月号

発行 中野区昭和区民活動センター運営委員会
編集 広報部会 昭和地域ニュース編集会議
〒164-0001 中野区中野 6-16-20
TEL : 03(3368)8164
FAX : 03(3368)8168
E-mail:nakano_showa@nifty.com
http://www.nakano-showa.gr.jp/



我が家のアイドル
上高田一丁目の柴犬「元気ちゃん」。信号が大好き。赤の時はちゃんとお座りして待ちます。青になったらゴ〜!!

中野サンモール商店街物語

中野駅北口に降りるとすぐ迎えてくれるサンモール商店街。サンモールは中野の発展を見守り、共に成長し変化してきました。今回は中野サンモール商店街振興組合の協力により、平成元年5月発行の『サンモールの歩み』(中野サンモール商店会発行)を基に、その変遷をたどってみます。※古い写真は同誌から。

■商店街誕生前後

現在のサンモールの地域に商店(炭屋)が初めてできたのは、大正時代。その後少しずつ商店が増え、商店街らしい形になったのは昭和3年頃でした。中野駅の駅舎は初めは高円寺寄りにありましたが、手狭になり改築する際、東へ移転する陳情を商店主の皆さんが行いました。昭和4年中央線中野駅の現在地への移転とともに、商店街も飛躍的な発展を遂げました。

当時、今のサンモール一帯は現在の線路とほぼ同じ高さで、北から南への行き来には踏切を渡っていました。そこへ、大通り(現在の中野通り)の踏切をなくして跨線橋を作ろうという計画が起きましたが、商店の方々は「陸橋ができれば車や馬車がほこりを舞い上げ、店がほこりだらけになる」と考え、半年以上鉄道省に掛け合い設計変更を勝ち取りました。それが現在の中野駅西側のガードです。

中野駅移転とともに考えられたのが、北口駅前一帯を自分たちで掘り下げ大通りと水平にするという構想でした。昭和3年頃から5年にかけて、武蔵野台地の高台であった地域全帯を4m程自分たちの力で掘り下げ、馬車で土を取り除き、現在の地形を作りました。

サンモールの商店街と大通り(中野通り)の商店街は、昭和4年頃には一つになり「中盛会」が結成されました。中盛会の先人たちの信念とビジョンが、現在の駅周辺とサンモールの繁栄を作ったと言えます。

■戦前・戦中の様子

現在のサンプラザや区役所、四季の森公園がある一帯は明治期から昭和20年の敗戦まで、陸軍関係の施設がありました。初め陸軍の鉄道隊・電信隊・気球隊が創設され、その後電信隊が残り、昭和13年頃、陸軍中野学校と憲兵隊がやってきました。昭和初期の中盛会は商店数も多くなかったのですが、どの店も年中無休で夜11時頃まで開いていました。商店街全体で、人情のある近所づきあいが行われていたそうです。第二次世界大戦中、国民は耐乏生活を余儀なくされ、商店街は開店休業となりました。昭和15、6年から終戦までは、商店街の活動も各店の営業もほとんど停止していました。

■戦後の復興

昭和20年5月25日の空襲で中野区の半分は火の海になりましたが、中野駅北口は無事でした。しかし強制疎開で商店が取り壊された跡地は焼野原同様だったので、終戦後間もなく露天商が群がってきました。ヤミ市のボス支配的な体質や縄張り争いによる事件などで混乱していた時代はやがて終わり、昭和23年には東京都美観商店街の一つに指定され「中野北口美観商店街」に改称されました。昭和24年頃から物資統制がはずされ、自由な生産と取引が復活しました。

商人たちは、混乱の時代にも仲間意識の火を消すことなく駆け抜けました。昭和24年3月、区設小売市場が開店。翌年8月には中野区産業振興会結成。昭和28年5月、中野区商店街連合会が設立されました。この時の加盟は45商店会、会員数は2,112人でした。区商連は次々と事業を展開し、組織を拡大しました。時代の流れに沿って消費者の動向を見ながら、行政にも働きかけ続けました。中野北口美観商店街は区商連の中でも最も力のある商店街の一つとして注目を集め、「中野区の顔」として見られても恥ずかしくない街づくりに精励しました。

改修を条件に許可がありました。数々の苦勞を経て、昭和33年11月に第1次アーケードの開通式を迎えました。これによって中野北口美観商店街は区内最優秀の商業地域となりました。

■ブロードウェイの出現

昭和34年10月、通りを延長し昭和通り(現在の早稲田通り)まで貫通させるため、中野駅北口開発委員会が結成され、昭和41年10月に東洋一の地上10階地下3階、5階以上は高級マンションの、中野ブロードウェイが完成しました。400店舗もの巨大ショッピングセンターの完成を前にして、中野北口美観商店街は大理石の豪華舗装と旧来の9倍の明るさのシャンデリアを設置し、面目を一新しました。中野北口美観商店街とブロードウェイは一つの巨大な商勢圏となりました。

昭和40年代は、それ以外にも43年10月の中野区役所新庁舎事務開始、48年6月の中野サンプラザ開館など、中野駅北口周辺に近代的都市機能が集まった画期的な年代でした。昭和50年11月には第2次アーケードの完成と共に愛称が募集され、今や区内に知らない人はいない「中野サンモール」という名称が生まれました。



愛称募集の看板

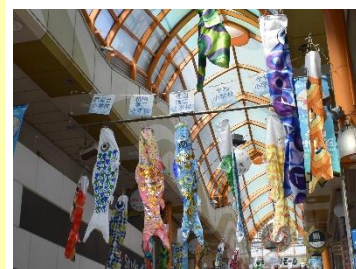


平成元年頃のサンモール

■先人の力を活かして

平成10年3月に竣工した第3次アーケードのコンセプトは「太陽の散歩道」。天井が高く明るく開放感のある空間と、時間毎に違うサウンドミュージックが特徴であり、空中水族館、空中ギャラリーなどのイベント毎に装飾がアーケードを彩っています。全長は224m、約110店舗。観光名所でもあります。

サンモールを築いてきたのは、ごく普通の商店主の方々。明るく、人間的で、豊かな環境を作るために様々な困難を乗り越えてきました。ネット通販や新型コロナウイルス感染症の影響で、それ以前に比べると人出が減りましたが、先人の知恵と勇気を活かしてサンモールは歩み続けていきます。



こいのぼりアート展 2022



現在のサンモール正面



昭和26~27年頃の入り口のアーチ

■第1次アーケードの建設

中野北口美観商店街は、昭和28年度の東京都商店コンクールで知事賞に輝きました。その時、審査委員長だった都の建設局長が「アーケードを作るべきだ」と指摘したのを受け、建設実行委員会が組織され事業を推進しましたが、許可申請は困難を極めました。電柱の移転や防火

【昭和地域ニュース No.44は全戸配布しています】



昭和初年ごろの中野駅北口の様子
(古老の記憶による作図)



中野駅北口一帯の掘り下げ工事